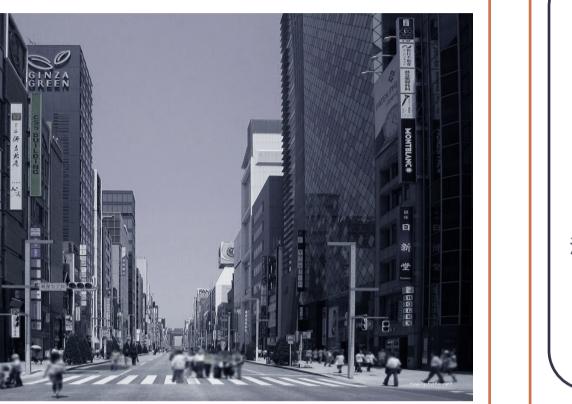
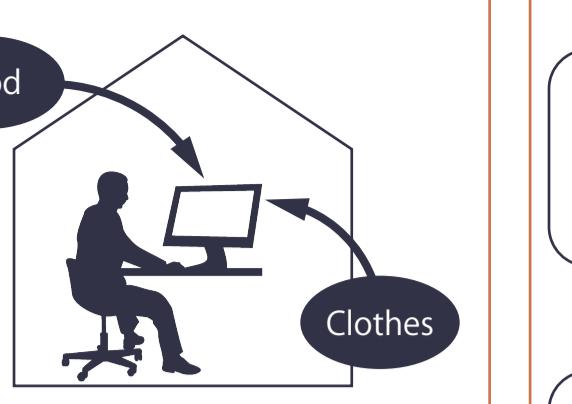


いどころ 居処 GINZA



01

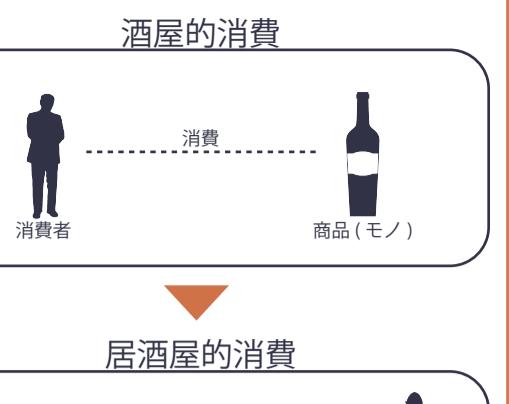
モノ消費の加速と銀座の小売業



従来のモノ消費の消費スタイルを「酒屋の消費」とするならば、未来的な細胞に求められる消費スタイルは「居酒屋の消費」である。現在小売店が多く立ち並んでいる銀座ではあるが、モノ消費の加速によって、ただ商品を購入することへの需要は低下するとみられ、モノ消費では代替でない消費体験の場になることが望ましい。

02

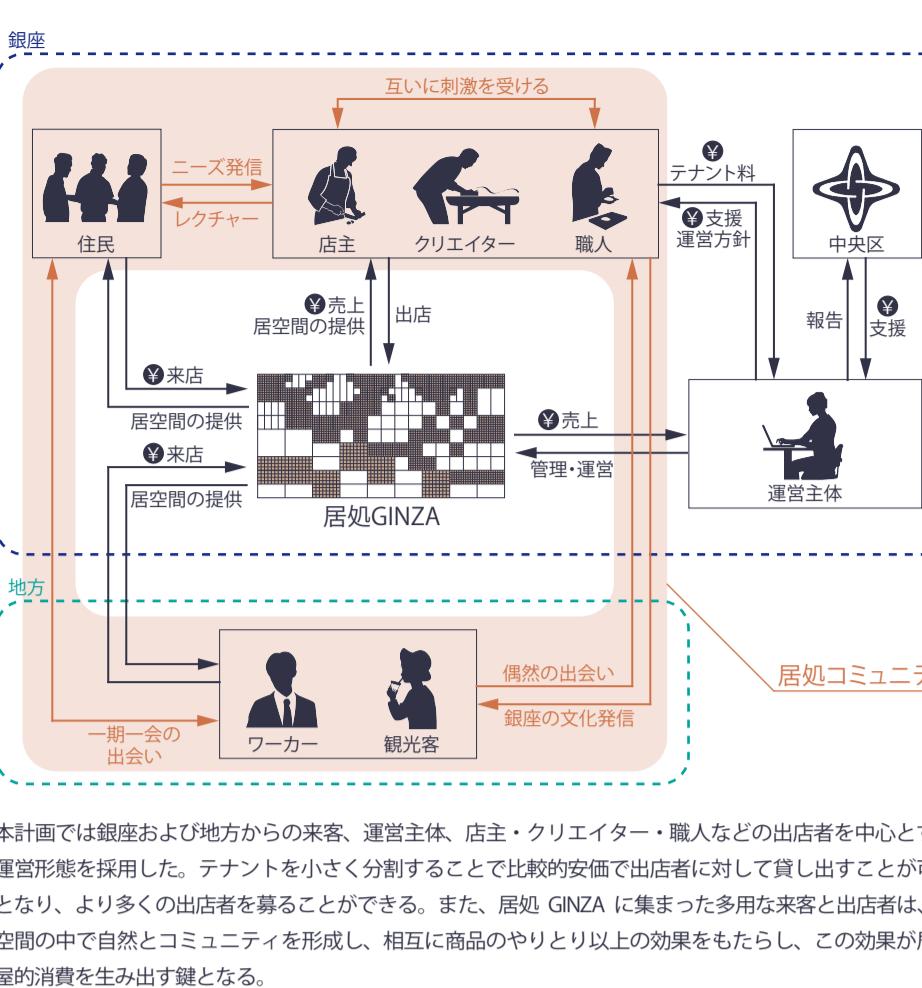
未来の銀座の消費＝「居酒屋の消費」



従来のモノ消費の消費スタイルを「酒屋の消費」とするならば、未来的な細胞に求められる消費スタイルは「居酒屋の消費」である。現在小売店が多く立ち並んでいる銀座ではあるが、モノ消費の加速によって、ただ商品を購入することへの需要は低下するとみられ、モノ消費では代替でない消費体験の場になることが望ましい。

03

運営システムと居空間で生まれるコミュニティ



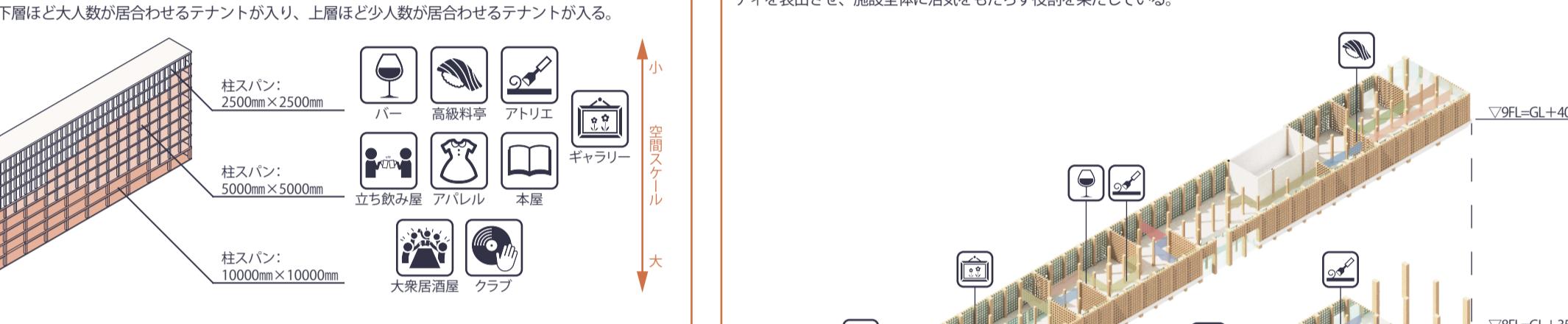
04 多用な居空間とはしごする体験

建築を構成する1000mm、5000mm、2500mm スパンの柱は、大きな空間が広がる下層から、ヒューマンスケールの空間を持つ上層へと、徐々に移り変わる全体構成を作り出す。空間スケールの移り変わりに伴い、様々な居空間が生まれ、そこに適したテナントが配置される。

居空間(テナント)を巡るよう計画された動線と吹き抜けは、下層と上層を立体的に繋ぐだけでなく、各居空間でのアクティビティを表させ、施設全体に活気をもたらす役割を果たしている。

04-1. スケールの異なる居空間をつくる格子構造

銀座の街が、活気ある中央通りから横路(逸れ道)に従って、より親密な奥へ入り込んでいくように、上層に向かうにつれて、スパンの小さな立体格子を用い、空間を構成する。この3種類の立体格子は、居空間の単位となり、格子の大きさとテナントとともにいる消費活動の空間スケールを対応させて、様々な居酒屋の活動を誘発する。下層ほど大人数が居住するテナントがあり、上層ほど少人数が居住するテナントがある。



04-2. 居空間をはしごする動線と吹き抜け

建築全体に配置された居空間(テナント)を巡るように主動線を長く計画し、さらに主動線の上部に吹き抜けを設ける。居空間に対して主動線はセレニティビティの場所として機能する。主動線を歩く、脇にある居空間の様子や吹き抜け越しに別アプローチの居空間の様子を感じ、目的のテナントを向かう道の様な偶発的な出会いにつながる。これははしごする体験を通じた偶発的な出会い人々を新たな居空間へ誘導する。



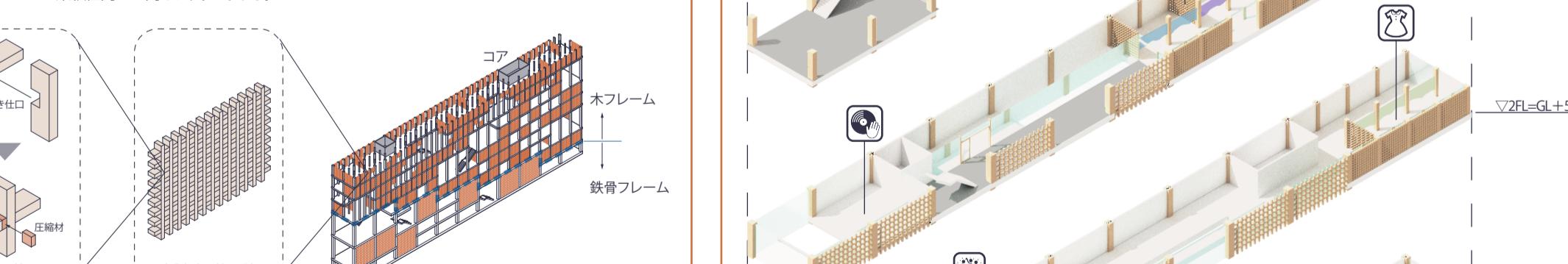
04-3. 居空間の柔らかな境界をつくる間仕切り

居空間は、視線を遮ることも開放することも容易な間仕切り(のれん、引き戸、格子壁)によって形づくられる。この間仕切りと立体格子構造によって柔らかく分断されたヒューマンスケールの空間は、人々が使いやすい空間となる。また、境界の外に活動があわせ出すことや外部から中の様子をうかがうことが容易であるため、あらゆる人が訪れやすい居空間を実現する。



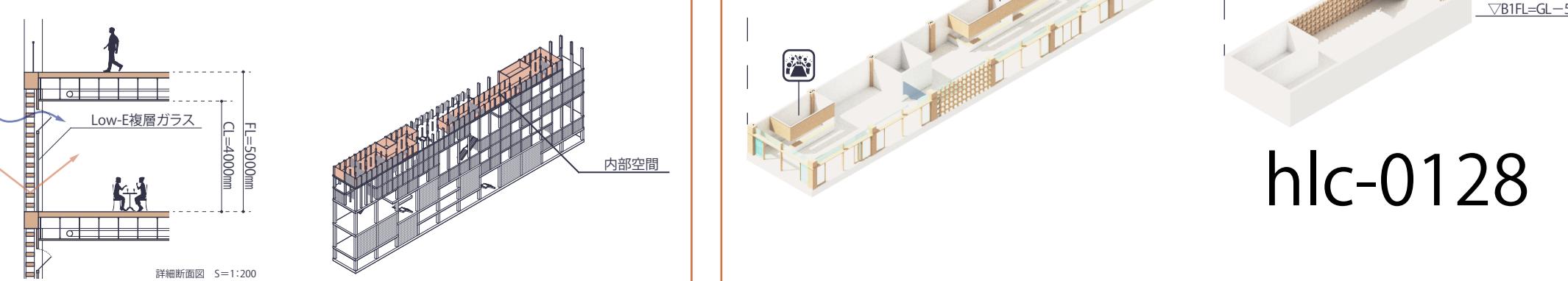
05 構造計画 木製耐力格子壁の配置

立体格子構造については、下層(1000mmスパン)は鉄骨フレーム、中層および上層(500mmスパン、250mmスパン)は木製フレームを使用する。直角方向と水平方向の木材を組み合わせて柱及び柱口に圧縮材を挿入した耐震面格子によって木製耐力格子壁を実現できる。立体格子構造の中に木製耐力格子壁とコアを平面的にランクよく配置することで、水平耐力を向上している。また、格子壁は部分的に撤去および増設が可能であり、中高層建築の長寿命化やプランの柔軟性向上に向けた試みである。



06 環境計画 心地よい光環境と省エネエネルギーの両立

格子壁の水平材によって直射日光を遮断するとともに、Low-E複層ガラスを採用することによって建物内部への熱エネルギー流入量を減らす。また、格子壁の水平材に柔らかな反射光を内部に取り込み照度負荷を低減する。ガラス壁上部に設置された電動式窓を開閉することによって、格子壁の間を風が抜けて自然換気が促される。さらに、各部の内部空間が分割されておりそれぞれの内部空間の体積が小さくなっていることで、空調の空調の効率を向上させている。



hlc-0128